

特集 戦争と平和

戦争の史跡から 伝えたいこと…

写真は現在の忠魂塔（岩淵）

旧富士川町地域には、多くの戦争の史跡が残っている

もうすぐ8月。8月15日は、64回目の終戦記念日です。それは、日本だけでなく、世界じゅうが忘れてはいけない、第2次世界大戦（太平洋戦争）終結の日です。

戦後64年が経過した平和な今日、戦争の恐ろしさ、悲惨さを知る戦争体験者が少なくなりつつあります。

今回は、昨年11月に富士市と合併した旧富士川町地域の史跡を中心に紹介します。日露戦争時に使用された巡洋艦の主砲などを使ってつくられた「忠魂塔」や、太平洋戦争時に軍用としてつくられた「地下ごう」など、戦争の痛みを伝える場所が数多く残っています。

この史跡やそれに伴う戦争体験を通じて、皆さんもこの機会に「戦争と平和」について、じっくり考えてみませんか？

忠魂塔



富士川第一小学校東側にあった忠魂塔(昭和46年)

巡洋艦の砲身を使用した忠魂塔

旧富士川町の忠魂塔は、大正13年、富士川第一小学校東側にあった奉安殿(※)の敷地内に、日清・日露戦争の戦没者供養のため建立されました。この忠魂塔は、日露戦争の日本海海戦で使用された巡洋艦の20センチメートル主砲を中心に、30センチメートル砲弾2個、20センチメートル砲弾7個を使用しました。また、基礎台は軍艦富士の砲盾で、砲身の長さは9・55メートル、重量は17トンありました。建立作業は、横須賀からの輸送をはじめ、多数の人員と日数がかかったと言われています。

昭和47年、旧富士川町役場の新庁舎建設に伴い、旧松野村の忠魂碑と併せて、現在の富士川第一小学校の裏山に移転復元をしました。この移転作業は、自衛隊に協力してもらい、ようやく完成しました。

※奉安殿

戦前戦中に各地の学校で、天皇皇后の写真などを納めていた建物のこと。

戦時中の旧富士川町 ①町役場

●町役場で聞いた終戦のラジオ放送

終戦時、私は旧富士川町役場の職員でした。当時の旧富士川町役場は木造平屋建てで、私たち若手職員は、仮事務所として役場に駐屯していた数人の兵士と一緒に寝泊まりしていました。

終戦の年は、警戒警報が391回、空襲警報が75回発令され、私は連日その対応に追われていました。私は兵事係の担当で、所轄の警察署から召集令状が市町村役場に届くと、指定された期日までに入隊するよう、本人や家族に伝達する役割でした。戦争が激化すると、昼夜関係なく召集が行われました。

4月のある夜、急ぎの召集令状を、自転車ですぐ2時間以上かけて届けに行きました。本人は他県に住んでいましたが、たまたま実家に帰省していたため、令状を渡すことができました。その後、本人が戦死したと知り、とても複雑な思いになりました。そして終戦の日。全職員が町長室で、天皇陛下のラジオ放送に耳を傾け、日本の敗戦を知りました。戦後の不安の中、多くの人たちの努力によって、平和な今日があります。みんなが悲しむ戦争は、二度と行うべきではありません。



戦時中から旧富士川町役場の職員だった
大久保 芳夫さん (岩淵)



建設当時の富士川第一小学校と忠魂塔(大正13年)

戦時中の旧富士川町 ②学校



旧富士川町国民学校の教師だった
佐野 謹子さん (南松野)

※佐野さんは、「母たちの記録集」を中心となって編集しました。

●食べ物がなくつらかった昼食の時間

昭和19年、私は旧富士川町国民学校に赴任し、2年生34人の担任になりました。兵隊が学校に駐屯していたため、子どもたちは校舎を半分しか使えず、校庭もさつまいも畑と防空ごうで半分しか使えませんでした。また、空襲に備え、被害を最小限にとどめるために、お寺や補習学校などで分散教育(授業)をしていました。食べ物も目を追うごとに乏しくなり、学校では、友達のお弁当を黙って食べたり、お弁当がなくて昼食の時間は隠れたりする子どもがいました。あげたくてもあげられなかったつらさは、今も忘れることができません。愛する子どもたちに、あの苦闘を再び味わわせたくはありません。

★旧富士川町婦人会発行「母たちの記録集」★



「母たちの記録集」編集に携わった
旧富士川町婦人会会長
勝呂 恵子さん (岩淵)

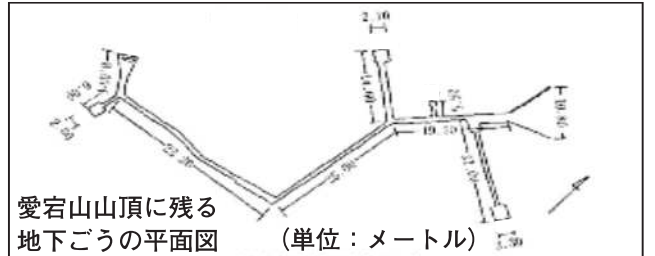
※総集編は、市立図書館富士川分室で貸出可能。

私は6歳のとき、静岡大空襲の被害に遭いました。そのとき感じた戦争の悲惨さを後世に伝えるため、婦人会文化部を中心に、皆さんから戦争体験記を集め、「母たちの記録集」という冊子にまとめ4巻発行しました。

地下ドクト



愛宕山山頂に残る地下ごう入り口の様子



愛宕山山頂に残る地下ごうの平面図

(単位：メートル)

■雨乞山・愛宕山に建設された地下ごう

室野区南西方面にある雨乞山・愛宕山の山腹に、数多くの地下ごうが掘られています。これは、日本の戦況が悪化した太平洋戦争末期、本土決戦に備えてつくられたものです。米軍が駿河湾から上陸して富士川沿いを北上することを想定し、山頂から砲撃するための陣地としてつくられました。

作業は、昭和19年ころから始まりましたが、ほとんどが手作業だったため困難を極めました。

しかし、昭和20年7月になると、作業は急に中止となりました。理由は、陣地をつくっても備えつける砲がなかったとか、米軍が関東方面に上陸する可能性があり移動命令が出たなどと言われていますが、定かではありません。

昭和61年、町は11か所の地下ごうの測量調査をしました。愛宕山山頂にある地下ごうが最も大きく、高さ1・5メートル、全長81・7メートルあります。※地下ごうは、危険なため現在立ち入り禁止です。

◆戦時中の旧富士川町 ③室野区◆

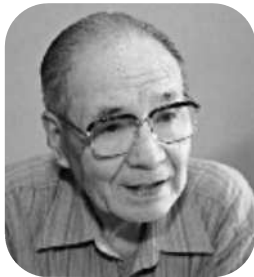
●突然、自宅が軍隊の駐屯場所になった

昭和20年春、私は家業のミカン農業に従事していました。すると、突然兵士数人が家に来て、「家を借りたい」と言いました。当時の軍隊の要請は断ることもできず、家の2間を提供しました。兵士が学校に泊まり、幹部が民家に泊まっていたようです。軍隊が室野区に駐屯する理由は、近くの雨乞山への陣地（地下ごう）の構築でした。何でこんな場所にごうを掘るのか不安でたまりませんでした。

家では、幹部会議が開かれていましたが、内容は秘密で、地下ごうの建設現場にも近づけませんでした。食糧は乏しく、兵士たちは、家畜に与えるようなものを食べていました。そのため、家でつくった食べ物兵士たちに食べてもらいました。

私は、5月に出兵しましたが、兵士は地下ごうの建設が中止になる7月ごろまで家にいたそうです。

その後、私は磐田市の訓練所で終戦を迎えました。戦地に行かなくて済み、ほっとしたのを覚えています。



戦時中、自宅が軍隊の駐屯場所になった
谷津倉 淳吉さん (木島)



地下ごう測量調査時の写真



2009平和のための富士戦争展

○テーマ 私たちがまもるべきもの 平和

○とき 8月11日(火)～16日(日)

○ところ 9時～17時(11日は10時開会式) ロゼシアター展示室

○入場料 無料

○展示内容

- ・戦争が若者たちの未来を奪った！
- ・戦場に散った富士市の兵士たち (若者たちの数々の遺品を展示)
- ・富士地域にあった戦争の傷あと
- ・本土決戦に備えて富士地域は

(旧富士川町の高射砲陣地づくりなどを紹介) ※このほかにも、数多くの展示、読み聞かせ、ビデオ上映などがあります。

○問い合わせ

「平和のための富士戦争展」実行委員会
事務局・富士市職員組合 ☎(55)2893



の「平和の戦争展」の
を務めている
さん
長年「平和の戦争展」の
委員を務めている
土屋 芳久さん (入山瀬)

●戦争の悲惨さを子どもたちに伝えたい

私は9歳のとき、東京大空襲で家を焼かれ失いました。その時のことを思うと今でも涙が出てきます。戦後、私は県の職員になり、退職した今は戦争の悲惨さを次世代に伝えるための活動をしています。ことしで22回目の「平和のための富士戦争展」は、初めから参加しています。今回は旧富士川町の内容も紹介しますので、ぜひご家族で見に来てください。



愛宕山山頂にある平和祈念碑

■愛宕山山頂に建立された平和祈念碑■

平成7年8月15日、戦後50周年の終戦の日。将来に向けて恒久の平和を祈念して建立された平和祈念碑の除幕式が行われました。

除幕式は、地下ごうの建設に携わった当時の隊長も招待し、当時の思い出と平和について話していただきました。

場所は、戦時中につくられた愛宕山山頂の最も大きい地下ごうの入り口近くに建立しました。高さ3メートルにも及び松野地区産の俵石と呼ばれる石材と、愛宕山山頂の地下ごうの概要を記載したステンレス製の説明板が設置されています。



平和祈念碑除幕式の様子

◆地下ごう調査と平和祈念碑建立の秘話◆

●地下ごうを歴史的記録として残しておきたい●

昭和61年、私は旧富士川町で広報の仕事をしていました。地下ごうを歴史的記録として残しておくため、測量調査を行いました。私も地下ごうの中に入りましたが、とても狭くて暑く、崩れている所もあって大変危険でした。11か所の地下ごうを調査しましたが、ほかにも地下ごうがあるのではないかと思いましたが、

平和祈念碑は、この戦争の史跡である地下ごうから恒久の平和を祈念するため、郷友会や遺族会などの平和祈念碑建立委員会の協力により建立されました。

実は、建立予算が少なく困っていました。父親が戦争に従軍したという知人が、地元産の巨大な俵石を寄贈してくれました。そのおかげもあり、立派な平和祈念碑をつくることができました。ぜひ、大切に後世へ残していきたいですね。



地下ごうの調査をし、平和祈念碑の建立にも携わった

富士川ふれあいホール
近田 弘 参事

★終戦当時の引揚者の皆さんへ★
通貨・証券などを返還しています

戦争後に外地から引き揚げてきた皆さんが、税関などに預けた通貨や証券を返還しています。返還請求は本人のほか、家族でもできます。

問い合わせ 名古屋税関 清水税関支署

田子の浦出張所 ☎(33)2791

★ビデオや16ミリ映画フィルムを貸出中★

戦争や平和について考える機会を提供するため、視聴覚資料の貸し出しを行っています。

問い合わせ 広報広聴課 ☎(55)2700

☎(51)1456

終戦から既に64年。昭和時代と同じ年月が流れ、当たり前のように平和な日々は続いています。

しかし、今回紹介した史跡などは、今もなお、戦争の痛みを伝え続けています。

その史跡たちは、戦争体験を風化させないため、私たちを見つめ続けているかのようでした。

ことしもまた、あの年と同じ暑い夏がやってきます…。

特集 戦争と平和 おわり